



秋まき小麦 起生期追肥は生育を見て実施！

本年、小麦の起生期茎数はやや多くなっています（表1）。越冬状態は良好で、病気の発生も少ない状況です。また、融雪は平年よりやや早く、起生期に（調査では4月1日頃）なっているほ場もあります。

小麦の生育状況を見て追肥を行ってください。

過繁茂（茎数1,300本/㎡以上）の小麦は、起生期追肥を控え、幼穂形成期近くより追肥を開始して下さい（葉色が薄くなってきたり、冬損している場合はただちに追肥して下さい）。

表1 参考：令和3年春の小麦生育状況（令和3年4月5～6日調査）

地区	畦幅(cm)	茎数/㎡	草丈(cm)	備考
JA今金エリア	12.5～30.0	1,563	10.2	7ほ場平均
JAきたひやまエリア	12.5～30.0	1,367	9.5	5ほ場平均
JA新はこだて若松基幹支店エリア	12.5～18.0	1,803	10.7	2ほ場平均



☆ 本年のきたほなみの追肥体系例

起生期の茎数 (㎡あたり本数)		800本以下	800～1,300本	1,300本以上
施肥	起生期	4～6 kg/10a 硫安 約30kg	2～4 kg/10a 硫安 約20kg 地力、前作、は種量に応じて調整する。	0～2 kg/10a 硫安 約10kg
	窒素量	2～4 kg/10a	2～4 kg/10a	2～4 kg/10a
	止葉期	4 kg/10a	4 kg/10a	4 kg/10a

☆ 起生期追肥のポイント

- ① ほ場の茎数を確認し、茎数に応じた追肥を行うこと
- ② 停滞水のあるほ場は、速やかに排水対策を行うこと
- ③ 根浮きや、茎数が異常に多い場合は、ローラーでの鎮圧も行うこと
- ④ 幼穂形成期追肥時も生育をみて追肥量を加減しましょう。

※ 茎数の数え方がわからない場合は関係機関にご相談下さい。

☆間作アカクローバでダイズシストセンチュウ対策

秋まき小麦にアカクローバを間作することにより、ダイズシストセンチュウが約7割減少します。

は種は起生期の追肥と同時に行います。秋まき小麦収穫後は、必ず麦稈を搬出し、アカクローバの生育量を確保しましょう。

10aあたりは種量	3 kg
10aあたり施肥量	リン酸 4 kg を起生期追肥に加える (熔燐20kg/10a程度)

※クリムソクローバの秋まき小麦間作はできません！！

○●安全第一で農作業を行きましょう！！●○